2022年度　日本工学院専門学校

ＩＴスペシャリスト科

卒業制作１

対象	４年次	開講期	前期	区分	必修	種別	実習	時間数	270	単位	9
担当教員	大日方俊彦			実務経験	有	職種	システムエンジニア				

担当教員紹介

IT系企業でシステムエンジニアとして４年間の実務経験があり、主として工程管理のシステムの構築に従事。本学では、ITの教員としてのプログラミングや資格対策の講座を担当したキャリアと、キャリアサポートセンターでの就職指導の経験も有する。

授業概要

これまで身につけてきた知識と技術を活用し、グループでの制作に取り組む。この制作活動を通して、社会に出て仕事をする上で必要なコミュニケーション能力を実践的に身に付けていくこと、実装力を養い仕事に活かせる技術力にしていくこと、IT分野の技術動向を自分たちで調べ開拓する力を得ること、プロジェクトに対し適切な役割分担をし、プロジェクトを協力して推進する能力やマネジメントできる能力を育むことなどを目的とする。

到達目標

仕事をする上で必要なコミュニケーション能力を身に付け、授業で学んできたことを仕事に活かせる技術力にし、IT分野の技術動向を知り、自分たちで活用できるようになり、さらにプロジェクトマネジメント能力またはプロジェクトに適切に協力して推進させることができるようになることを目標とする。

授業方法

卒業制作2の前段の科目である。卒業制作2の実施に先駆け、グループ作成とグループで取り組む制作物を決める。また、制作物については、機材調達や制作期間、技術的要素の観点から、実現性を考慮し、決定する。グループ作業では、タスクの洗い出し・役割分担・スケジューリングを行う。授業の最後に、中間発表を行う。（最終的な発表は、卒業制作2で行う）

成績評価方法

試験・課題　70%　課題毎に提出。検定試験の受験・点数により評価
成果発表　　20%　授業内に行われるロールプレイング・グループワークにより評価
平常点　　10%　積極的な

履修上の注意

卒業制作は、必ず2名以上のグループで行うこととする。学校所有の機材などが制作に必要な場合は申請により使用することもできるが、他の授業での使用が優先される。計画と分担をしっかり決めて協力して進めること、遅刻や欠席をしないこと、提出物は期日を守り必ず提出すること。評価は基本的にはグループ単位で行うので、グループ全体で責任を持って活動すること。尚、授業時数の4分の3以上出席しない者は評価対象としない。

教科書教材

各グループごとに必要に応じて書籍を使用して良い。インターネットの情報や図書館の書籍も積極的に活用すること。

回数	授業計画
第1回	オリエンテーション　卒業制作1の実施趣旨、目標、進め方、および評価方法を理解する
第2回	制作物の検討ー個別ー（1）　制作してみたいアプリケーションやサービス、使ってみたい機材や技術を一人ひとり列挙する
第3回	制作物の検討ー個別ー（2）　制作してみたいアプリケーションやサービス、使ってみたい機材や技術を一人ひとり絞る
第4回	発表（1）　制作してみたいアプリケーションやサービス、使ってみたい機材や技術について一人ひとり発表する
第5回	発表（2）　制作してみたいアプリケーションやサービス、使ってみたい機材や技術について一人ひとり発表する

2022年度　日本工学院専門学校	
ＩＴスペシャリスト科	
卒業制作１	
第6回	グループ作成　グループが決定する
第7回	制作物の検討－グループ－（1）　制作してみたいアプリケーションやサービス、使ってみたい機材や技術を列挙する
第8回	制作物の検討－グループ－（2）　具体的な制作物について、2～3候補を挙げる
第9回	実現性確認（1）　調達機材や、制作期間や、技術要素などの観点から、実現性があるかどうかを調べる
第10回	実現性確認（2）　調達機材や、制作期間や、技術要素などの観点から、実現性があるかどうかを調べる
第11回	実現性確認（3）　調達機材や、制作期間や、技術要素などの観点から、実現性があるかどうかを調べる
第12回	実現性確認（4）　調達機材や、制作期間や、技術要素などの観点から、実現性があるかどうかを調べる
第13回	実現性確認（5）　実現性確認の結果を踏まえ、制作物を1つに決定する
第14回	計画（1）　中間発表までの計画が作成できる
第15回	計画（2）　制作物と計画について担当教員の承認をうける